

カリキュラム改革後のビジネス情報学科に おける教育実践に関する報告

— 2 年次配当のゼミ科目を中心として —

丹 羽 啓 一

1. はじめに

本学では全学的な取り組みとして、2013年度から大学全体のカリキュラムに関する見直しが始まり、その検討結果を受けてカリキュラムの改革が実施された。その改革によってビジネス情報学科のカリキュラムも少なからず変更されたが、大きな変更点はゼミ科目に関するものであった。

一方、ゼミ科目は、1 年次から配当されており、ゼミ科目を担当する教員は、自身のゼミに配属されたゼミ生に対して学習面や生活面に関する指導を行っている。学内の様々な部署や施設を活用出来るとは言え、基本的には配属されたゼミ生を担当者が一人で指導する形を取っており、指導をする上で生じた問題点などの情報を学科で共有するといった取り組みは本学科において今まで行われていなかった。また、1 年次や 2 年次配当のゼミ科目を担当していない教員は、講義で学生と接することはあったとしても学科にどのような学生が入学し、学生たちがどのように学修しているのかといった情報に触れることは難しかったと言える。

本稿では、本学科におけるカリキュラム改革の中からゼミ科目の改革について取り上げ、その変更点と学科独自の取り組みについて紹介する。また、本学科において実施している学生の学修に関する情報共有の取り組みについても述べる。

2. ゼミ制度の改革と本学科の2年次配当のゼミの取り組み

本章では、カリキュラムコーディネイトの検討結果を受けて実施されたゼミ制度の改革の中から本学科におけるゼミ科目の変更点について述べると共に本学科の2年次配当の演習科目において実施されている学科独自の取り組みについて説明する。

2.1. 本学科におけるゼミ科目の変更点

2013年度入学生までに適用されたカリキュラムにおいて本学科のゼミ科目（一部、学科科目を含む）は次のようになっていた。

- ・ 1年次前期 入門ゼミⅠ
- ・ 1年次後期 入門ゼミⅡ
- ・ 2年次 グループ演習
- ・ 3年次 卒業研究Ⅰ
- ・ 4年次 卒業研究Ⅱ

2013年から始まった本学におけるカリキュラムをどのように改革するのかといったことを議論していたカリキュラムコーディネイト（通称CC）の検討結果^{1,2)}を受けて、本学科のゼミについても2014年度入学生から次のように変更された。

- ・ 1年次前期 大学入門ゼミ
- ・ 1年次後期 興動人入門ゼミ
- ・ 2年次前期 ビジネス情報入門ゼミ
- ・ 2年次後期 プレゼミ
- ・ 3年次 演習Ⅰ
- ・ 4年次 演習Ⅱ

ただし、ビジネス情報入門ゼミについては、2014年度入学生のカリキュラムでは選択科目、2015年度入学生以降のカリキュラムでは必修科目として扱うことになった。

他学科のカリキュラムと異なる点は2年次前期にビジネス情報入門ゼミが設置されていることにある。本学科では、学科開設以来、2年次から4年次まで学科教員がゼミ科目を通じて継続的に専門教育を行ってきた経緯からそれを踏襲するために設置されたものである。

CCの前後におけるゼミ科目の変更点と学生が履修するゼミの変更の可否をまとめたものを図2.1に示す。

学期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
2013年度入学生まで (CC前)	グループ演習(通年)		卒業研究Ⅰ(通年)		卒業研究Ⅱ(通年)	
	ゼミの変更は原則なし		ゼミの変更は原則なし			
2014年度入学生から (CC後)	ビジネス情報入門ゼミ	プレゼミ	演習Ⅰ(通年)		演習Ⅱ(通年)	
	ゼミの変更は可能		ゼミの変更は可能		ゼミの変更は原則なし	

図2.1 本学科のゼミ科目の配置とゼミの変更の可否

2.2. ビジネス情報入門ゼミとプレゼミの位置付け

2002年度に発行されたビジネス情報学科履修ガイドブック³⁾によるとグループ演習の授業概要は「本演習の内容は、各演習担当者の定める専門テーマに沿ったものとするが、同時に、(1)日本語文章表現、(2)ビジネス・コミュニケーション、(3)プレゼンテーション、の3つの基礎能力の向上も目指す。これらの基礎能力の向上は、激化する就職戦線に本学学生達が勝ち残るためには不可欠なものであり、また教職は勿論のこと、MOT取得に向けても重要な準備と対策となる。本演習と「卒業研究Ⅰ～Ⅳ」は、原則として非継続的な関係にあると理解しておくこと。本演習の目的は、卒業後に問われるであろう「社会的基礎能力」の向上にある。そのために「グループ演習」としている。」となっている。2年次配当の通年科目であるグループ演習では、各教員の専門のテーマに沿って(1)か

ら(3)の基礎能力を学生に身に付けさせていた。このことからグループ演習で学生は専門の基礎的な内容を学んでいたと言える。

ゼミ改革を受けて、2年前期に設置されたビジネス情報入門ゼミは、1年次配当の大学入門ゼミや興動人入門ゼミで扱っている、大学で学ぶ際に必要とされる基本的な学習技術の習得や興動館で活動するために必要な基礎的な技術を身に付けた上で、2年次以降に配当される専門科目を学んだり、専門のゼミ科目を受講したりする際に必要となる学習技術を身に付けさせるような内容になっている。

ビジネス情報入門ゼミでは、グループワークによるコミュニケーション能力の向上を目指していることから、授業の内容の中に(1)グループワーク、(2)日本語文章表現、(3)コミュニケーションの能力を向上させるような課題を取り入れている。授業計画の概要を付録Aに示す。

付録Aを見ると、この科目には「合同」と「ゼミオリジナル」という2種類の授業がある。前者は、一学年の学生全員を集めて実施するか、もしくは別々の教室にて同じ内容の授業を同時に実施するものである。後者は、担当者ごとに内容を検討して実施する形式の授業になる。「合同」の授業については、2年次以降における本学科の学びの概要を把握する授業、SPIの模擬試験を実施する授業、この授業において学んだ内容の発表会(発表会において学生に記述させているシートを付録Cに示す)などがある。また、「ゼミオリジナル」の内容については、担当者ごとに異なるが、著者の場合は、レポートの作成に必要な基礎的な能力を身につけさせ、作成したレポートの内容をPowerPointを使用して発表させている。学生に作成させるレポートは、大学入門ゼミの授業の中で扱っている教養教育的な内容ならびに後述するプレゼミの授業の中で扱う専門基礎の内容と差別化するためにビジネス全般に関する内容もしくは情報全般に関する内容という一定の制限を設けるようにしている。これは、ビジネス情報入門ゼミの位置付けを考えた上で各担当者の専門の内容に傾注しすぎないように配慮したものである。「ゼミオリジナル」とはいえ、授業計画の合同③と合同

④においてビジネス情報入門ゼミの授業で学んだ内容を発表する機会があるため、発表に向けた調査、研究などを行う必要があると言える。

一方、2年次後期配当のプレゼミは、3年次以降に設置されている演習Ⅰや演習Ⅱといった専門ゼミを受講するために必要な基礎的な学習技術の習得を目標に設置された科目である。

本学科では、2年次前期配当のビジネス情報入門ゼミに引き続き、プレゼミにおいてもグループワークによるコミュニケーション能力の向上を目指しており、ゼミの学びを通じて(1)グループワーク、(2)コミュニケーション、(3)日本語文章表現の3つの能力の向上させるような授業内容にしている。授業計画については付録Bに示した通りである。

ビジネス情報入門ゼミと同様にこの科目にも「合同」と「ゼミオリジナル」の授業があり、「合同」に関しては、2年次後期以降の本学科の学びについて理解してもらう授業、キャリアセンターの職員の方にコーディネータをお願いし、内定を得ている本学科の4年次の学生数人に就職活動の取り組みについて講演してもらうキャリア講演会(内定者)、Webテストに取り組んでもらう授業、本学科の4年次の学生数人に卒業研究の内容を報告してもらう発表会(発表会において学生に記述させているシートを付録Dに示す)などを設定している。「ゼミオリジナル」については、担当者ごとに内容は異なるものの、ビジネス情報入門ゼミの内容よりは、各教員の専門の基礎的な内容になるように心掛けてもらっている。著者の場合は、収集したデータに可視化手法を適用し、グラフや図解を作成できるようになること、データとグラフや図解からどのようなことが言えるのかを考察すること、考察した結果をレポートにまとめること、レポートの内容についてパワーポイントを用いた資料を作成し、発表できるようになること、他のゼミ生の発表を聴講し、その内容に関して簡単な質疑応答ができるようになることを目標に授業内容を選定している。

ゼミ改革前の2年次配当科目であるグループ演習は、3年間一貫のゼミ教育における1年目という位置付けにあり、各担当者の専門の基礎的な内

容を用いて、上述した(1)から(3)の能力の向上を目標としていた。しかしながら合同授業のような学科全体で実施する教育内容はなく、ゼミごとに閉じた状態で専門の基礎教育を行っていた。ゼミ改革後に設置されたビジネス情報入門ゼミとプレゼミでは、「合同」の授業内容を通じて、学科の学生全体に対して2年次以降の学科における専門科目の学びについて理解してもらうこと、就職活動に向けた準備を促すこと、卒業研究の発表を聴講することによって各ゼミにおいて行っている研究内容の理解を深めることが可能となるとともに「ゼミオリジナル」の授業内容を通じて、各ゼミにおいて3年次以降に扱う専門の基礎的な内容についても学ぶことが可能になっており、大学の入門的な色彩のある1年次ゼミから3年次以降の学科の専門ゼミへの橋渡しをすることが可能になっていると言える。

3. ビジネス情報学科における学生の学修に関する情報共有の取り組み

ビジネス情報学科の学生の定員は80名であり、また、学科に所属する教員も10名弱であることから経済学科や経営学科に比べると規模の小さな学科であると言える。規模が小さければ、学科に所属する教員と1・2年次の学生の間に接点を持ちやすいのかというところでもない。1年次配当のゼミ科目や本学科独自に設置している2年次前期配当のビジネス情報入門ゼミを担当する教員の数学科の全教員の半数に満たず、教員によっては2年次後期配当のプレゼミもしくは3年次配当の演習Ⅰを履修する学生に接して初めてその年度の学生と接点を持つことになる可能性がある。1・2年次配当のゼミを担当する教員の場合、学生との接点を持つことはできるものの、ゼミという小さな単位に属する学生に対して個別の学生対応をすることから教員個人の対応能力に依存しているのが現状であり、教育・学習支援センターなど学内の様々な施設を活用できるとはいえ、学生対応において生じた悩みや問題点を個人で抱え込んでしまう可能性がある。

このような状況を踏まえ、本学科に所属する教員が一つのチームとして

学生に対応していくことのできるような仕組みを構築できないかと考え、次のような二つの取り組みを実施している。一つは、1・2年次配当のゼミ担当者による学生の情報と学生指導時の悩み等の情報を共有する機会を設けていることである。もう一つは、学生の学修に関する情報を本学科に属する教員間で共有することである。

一つ目の取り組みは、ゼミ担当者の間において学生の出席状況、学習状況、修得した単位数など主に学修に関連する情報の共有と配慮等が必要な学生の可能な範囲での情報共有を目指したものである。この取り組みにより、学科に属する学生全体の現状把握が可能となり、各学年における成績不振者への統一した対応を考えることも可能になると共に学生を指導する際に直面した悩み等を教員個人で抱え込まないようにするような仕組みを整えることができています。

二つ目の取り組みについては、3.1節以下において詳述する。まず、3.1節では、進級制度について簡単に説明し、3.2節では、学生の学修に関する情報の共有について解説する。

3.1. 進級制度

本学では、2014年度入学生から進級制度が設けられた。その制度の概要を示す⁴⁾。まず、2014年度入学生における進級ならびに仮進級の要件を示すと以下の通りになる。

【進級認定の要件】

進級に必要な単位数：52単位

修得が必要な科目：①英語 AI, ②英語 AII, ③英語 BI, ④英語 BII,
⑤入門ゼミ I, ⑥入門ゼミ II, ⑦プレゼミ (計7
科目：10単位)

【仮進級認定の要件】

進級に必要な単位数：46単位

修得が必要な科目：①英語 AI, ②英語 AII, ③英語 BI, ④英語 BII,
⑤入門ゼミ I, ⑥入門ゼミ II, ⑦プレゼミ (計7
科目：10単位)

次に2015年度以降の入学生に適用される進級ならびに仮進級の要件を以下に示す。

【進級認定の要件】

進級に必要な単位数：51単位

修得が必要な科目：①必修英語 AI, ②必修英語 AII, ③必修英語 BI,
④必修英語 BII, ⑤必修英語 CI, ⑥必修英語 CII,
⑦大学入門ゼミ, ⑧興動人入門ゼミ, ⑨プレゼミ
(①～⑥の中から4単位分と⑦, ⑧, ⑨の6単位
分の合計10単位)

【仮進級認定の要件】

進級に必要な単位数：45単位

修得が必要な科目：①必修英語 AI, ②必修英語 AII, ③必修英語 BI,
④必修英語 BII, ⑤必修英語 CI, ⑥必修英語 CII,
⑦大学入門ゼミ, ⑧興動人入門ゼミ, ⑨プレゼミ
(①～⑥の中から4単位分と⑦, ⑧, ⑨の6単位
分の合計10単位)

注：①と③は前期開講科目, ②と④は後期開講科目,
⑤と⑥は通年開講科目

3.2. 1, 2年次の学生の学修に関する情報の共有化

ここでは、1, 2年次のゼミを担当する教員間で共有した学生の学修に関する情報を本学科に属する教員間で共有する取り組みについて述べる。

教員間で共有する学修に関する情報は、今のところ3.1節で述べた進級に関わる情報のみとしており、学生の成績が公表される時期に合わせて資料を作成し、半期ごとに学科会で報告している。報告している具体的な内容は、個人情報保護の観点から進級できない可能性のある学生数、その事由（学籍番号や氏名等は伏せた上で記載）になる。

ここでは、2016年度前期の終了時点における1, 2年次生の成績資料をもとに学科会の報告資料を作成する際に用いた条件について示す。

まず、2015年度入学生（2年次生）の成績をもとに資料を作成する際に用いた条件は以下の四つである。

1. ①と③の両方の単位が未修得であり、かつ、②, ④, ⑤, ⑥の単位が2単位以上未修得の場合
2. ①もしくは③のいずれかの単位が未修得であり、かつ、②, ④, ⑤, ⑥の単位が3単位以上未修得の場合
3. ①と②の両方の単位は修得済みであるが、②, ④, ⑤, ⑥の単位が未修得の場合
4. 2016年度の前期を終了した時点で修得単位の総数が40単位以下の場合

ここで、①から⑥の文字は、2015年度以降の入学生に適用される進級ならびに仮進級の要件の修得が必要な科目の番号である。また、⑦がないのは、プレゼミは、2年次後期配当科目ゆえ、今回の調査対象にならないためである。参考までに付録Eに作成した資料のサンプルを示す。

次に2016年度入学生（1年次生）については、以下の二つの条件を用いた。

1. ①, ③, ⑦のいずれかの単位が未修得の場合

2. 今年度の前期を終了した時点で修得単位の総数が10単位以下の場合

①, ③, ⑦の文字の意味は、上述した通りである。2015年度入学生の場合と同じく付録Fに作成した資料のサンプルを示す。

このような資料を用いて学科会で報告することにより、必修科目の単位を修得できていない学生がどれぐらいいるのか、また、これまでに修得できた単位数を見ることによって単位修得状況の芳しくない学生がどれぐらいいるのかといった各学年の学生の単位修得状況の概要（現状）を学科の教員全体で把握することを可能にしている。ゼミ科目の担当の有無によらず、学科の学生は学科の教員が指導するという意味からもこのような情報を共有することは大事であると考え、このような取り組みを始めている。しかしながらこのような取り組みを実施しているものの、その効果の程はわからないのが実情である。しかしながら、今後も学科全体として学生に対応していくような取り組みを検討し、実施していきたいと考えている。

4. おわりに

本稿では、本学で実施されたカリキュラムの改革を受けて変更されたゼミ科目に対する本学科の取り組みについて示した。その際、改革の前後によるゼミ科目の変更点等について解説し、主に2年次前期配当のビジネス情報入門ゼミと2年次後期配当のプレゼミにおいて実施している学科独自の取り組みについて紹介した。それに加えて、本学科において実施している学生の学修に関する情報共有の取り組みについても述べた。具体的には、カリキュラム改革を受けて実施されるようになった進級制度について概説した後、単位修得状況の芳しくない1年次ならびに2年次の学生がどれぐらいいるのかといった情報について学科に所属する教員間で共有する仕組みについて述べた。このような取り組みを始めてそれほど時間は経っていないが、今後もビジネス情報学科全体として学科に所属する学生をどのように指導していけばよいか検討しながら新しい取り組みを実行していきたい

いと考えている。

参 考 文 献

- 1) カリキュラムコーディネイト (CC) 通信, NO. 30, (2014).
- 2) カリキュラムコーディネイト (CC) 通信, NO. 31, (2014).
- 3) ビジネス情報学科履修ガイドブック (平成14年度版) (2002).
- 4) 広島経済大学教務ガイド (2016).

付録

A. ビジネス情報入門ゼミの授業計画

第1回 合同①ガイダンス, ビジネス情報分野の知識を深めよう

第2回 ゼミオリジナル①

第3回 ゼミオリジナル②

第4回 ゼミオリジナル③

第5回 ゼミオリジナル④

第6回 ゼミオリジナル⑤

第7回 ゼミオリジナル⑥

第8回 合同② SPI に挑戦

第9回 ゼミオリジナル⑦

第10回 ゼミオリジナル⑧

第11回 ゼミオリジナル⑨

第12回 ゼミオリジナル⑩

第13回 合同③全体発表会①

第14回 合同④全体発表会②

第15回 ゼミオリジナル⑪

B. プレゼミの授業計画

第1回 合同①ガイダンス

第2回 ゼミオリジナル①

第3回 ゼミオリジナル②

第4回 合同②キャリア講演会(卒業生)

第5回 ゼミオリジナル③

第6回 ゼミオリジナル④

第7回 ゼミオリジナル⑤

第8回 合同③ Web テストに挑戦

第9回 ゼミオリジナル⑥

第10回 ゼミオリジナル⑦

第11回 ゼミオリジナル⑧

第12回 ゼミオリジナル⑨

第13回 合同④キャリア講演会（内定者）

第14回 合同⑤4年次生による研究報告会

第15回 ゼミオリジナル⑩

C. ビジネス情報入門ゼミの全体発表会において用いる評価シート

ビジネス情報入門ゼミ（丹羽）コメント

【評価者】

学籍番号（ ） 名前（ ）

評価は5段階評価でご記入ください

⑤大変よかった、④だいたいよかった、③普通、②あまりよくなかった、

①よくなかった

番号	学籍番号	名前	テーマ	評価			コメント
				話し方 態度	発表資料	内容	
1							
2							
3							
4							

丹羽ゼミの中で、最も良かった発表の番号に○を付けてください。（1件のみ）

D. プレゼミの4年次生による研究報告会において用いる評価シート

プレゼミ第14講 研究報告会

ゼミ（ ） 学籍番号（ ） 名前（ ）

番号	学籍番号	名前	所属ゼミ	テーマ	研究内容のまとめ・コメント
1					
2					
3					
4					
				・ ・ ・	
10					

E. 学科会報告用の資料のサンプル（2015年度入学生：2 年次生用）

科目名																		単位数	ゼミ	備考
必修英語 A-I		必修英語 A-II		必修英語 B-I		必修英語 B-II		必修英語 C-I		必修英語 C-II		大学入門ゼミ		興動人入門ゼミ		プレゼミ				
H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H28				
A																				
・																				
・																				
・																				
N																				

凡例 ×（評）：評価不能、×：D、未記入：単位修得済

網掛けは、成績発表が後期に行われる科目を表す。

F. 学科会報告用の資料サンプル（2016年度入学生：1 年次生用）

学生	科目名			単位数
	必修英語 A-I	必修英語 B-I	大学入門ゼミ	
A				
・				
・				
・				
N				

凡例 ×（評）：評価不能、×：D、未記入：単位修得済